

新宮山彦ぐるーぶ第2021回

### 四ノ川林道く茶白山く雨谷山縦走日帰り登山

◇実施日：2019年05月03日（金） 晴・一時雷雨

◇参加者：児嶋道夫、乾克己、中前 偉、須崎誠久、濱野兼吉、

上村洋司・和美。 7名。

道の駅「奥瀨温泉」に6時30分集合。児嶋・乾さんからのルート説明、危険を伴う場所が続くので充分注意し、事故のないようにとの指示を受ける。

国道169号を四ノ川林道入口まで戻り、そこから下山口のトンネルの待避場所に車を止め、児嶋さんのトラックと中前さんの軽トラの荷台に乗り込んで、県境尾根登山口に向かう。

登山口は林道に入り約6.2km地点。土砂が積み上げられていて、プレハブの廃屋がある。このプレハブの横に鉄梯子があつて、ここから乾さんを先頭に登りはじめる。



登山口



急登尾根



ギンリョウソウ

しばらくして尾根に取り付くが、初っ端から尋常でない急登である。北アルプスの笠新道や燕岳が急登だといわれるがその比ではない。アルプスは登山道が整備されていて、きちんとツヅラ折れで登る。しかしここは直登でしかも傾斜が尋常でない。今日は大丈夫なのだろうかと不安になる。とにかく張り出した支尾根の

ピークに取り付くまでの20分が身体も十分に温まっていず、思うように機能しない。何回も何回も深呼吸して肺に空気を送り込む。支尾根のピークをすぎ身体も温かくなり楽にはなるが、この県境尾根ルートは等高線がびっしりつまって急登の連続である。途中ギンリョウソウが群生していて写真に納める。花や植物の新芽はいつも心を和ませ癒される。

登りがきついので短い時間で休息を取りながら登っていく。山頂が近くなつて、道がなくなり各人で思い思いに登っていたところ、突然落石があり中前さんに直撃かと思われたが、横の倒木に飛びつきなんとか難を逃れる。隊列が長くなつたり横に広がったりすると、落石には対応しきれない。お互い十分に注意を払わなければならぬ。中前さんは「那智山の念珠が命を救ってくれた」とポツンとつぶやいたが、私は落石の状況をはっきり確認でき、中前さんの身体の動きも充分見て取れたので、落石が直撃することなく通過した時には胸をなで下ろした。



尾根にとりつく



茶白山頂標識



茶白からの下り

山頂近くになるとまだ芽吹きには早く、眺望もきいて遠く釈迦ヶ岳まで遠望がきく。近くには笠捨山、行仙岳、そして山菜のハリギリ、コシアブラ、花はアケボノツツジのピンクの色が所どころ咲き誇っている。

最後は人が通ることがほとんどないので、道はシャクナゲが生い茂り先頭の乾さんはノコギリで切りながら進み、11時38分茶臼山山頂に到着。約4時間半急な登りばかりの行程であった。

山頂には三等三角点。点名「立合川」(1180・7m)がある。ここに乾さんお手製のサークルKと山彦行事の児嶋さんの標識を付ける。乾さんのサークルKはこれからファミマの標識に変えては？と、誰かが揶揄する。

昼食後はカフェコジマのコーヒーが振る舞われ、それぞれお菓子の差し入れでひとときを楽しむ。

午後は茶臼山から雨谷山への間が難所である。詰み込んだ等高線。崖や急斜面の連続である。地図やGPSやスマホの地図アプリを駆使しながら、ああでもないこうでもないで行く先を探す。標識やテープは殆どなく、急斜面の下は断崖絶壁。慎重に慎重を重ね下る。



白いイワカガミ



ロープで降りる



雨谷山山頂

とうとう大事を取ってロープを使い下り始める。児嶋さんはハーネスを装着して身の安全を図る。最後尾の須崎さんがロープを回収しながら最後尾で続く。若いだけでなく随分経験も積んでいるのだろうかとおもう。

途中に非常に珍しい白いイワカガミが咲いていて写真に納める。

そういえば児嶋さんはかつて山野草やイワチドリを求めて、岩場を稼ぎまわった経験があるだけに岩場も諸共せず。また装備も完璧であり、懸垂下降も簡単に岩場をおりる。

私は最後の岩場でビビッてしまいきちんと懸垂下降ができず。ロープがぐらつき横に振られて肝を冷やす。全員何とか無事に809mのピークまでくる。ここをすぎれば雨谷山までは間近である。

雨谷山(山頂840・0m三等三角点名雨谷)に着く頃から雨が降り出し雷鳴も響き出す。児嶋さんは持参の標識を付ける私はカッパを着て、ザックカバーを装着する。ここでカメラのSDカードが接触不良になり写真は撮れなくなってしまふ。みなさんそれぞれカッパや傘で雨に対処する。

足元が泥濘始め下りにはよく滑る。児嶋さんが付けた下山用のピンクテープを頼りに下るが、これも下に向かって直進するため疲れた足元は制動が利きにくい。まわりの立木を掴みながら下るのも大変である。

乾さんが「前田山」標識を付けて、乾さんの奈良の山行は700座に一步近づいた。

最後にウラジロシダのヤブこぎをしてなんとか全員無事下山できた。総計約11時間。非常に厳しい山であった。

今回は、下見を兼ねた事前茶臼山山行であった。多くの希望者があったことも承知しながら断った。結果的にそれはよかったと思っている。それは長時間の歩行に堪えられ、なお岩場での経験を積んで、懸垂下降などきちんとでき、ヘルメット、ハーネス等の装備をきちんとできるといふ条件がそろつてのこと。茶臼山はやはり危険が伴いすぎる。中前さんが事前に「南紀の山と谷」を読んできたこと、聞かされ私も帰ってから読んでみた。

「茶臼山からの下りは藪も切り払われて歩きやすくなっている。P1015mから岩場まじりの急な下りで、立木がなければ穂高の稜線なみである。それでも熊笹は密生しておりルートファ



ンデングに気を抜けないと」記されている。

魅力のある山だが一般向け山ではない。私のレベルではとても連れて行ける山ではない。

是非といわれる方は児嶋さんをお願いし、それなりの訓練を積んでから望んで下さいというのが今回の結論です。

### 行動タイム

新宮発 5:30 ↓ 6:30 奥瀬温泉 ↓ 四ノ川登山口 7:10 ↓ 7:30 ↓ 県境尾根取り付き ↓ 11:40 茶臼山頂 12:30 ↓ 15:50 雨谷山頂 ↓ 18:00 下山。

(記：濱野、写真：乾・濱野)